

有機農業による地域の力と市民の力による持続可能な共生の時代へ

2012・11・21

福島県有機農業ネットワーク理事長 菅野正寿

1、 すすまない除染、損害賠償で地域が分断、ふくしまに心を寄せた復興へ

- 福島県内に 10 万人、県外に 6 万人が避難する平時ではない異常な事態
(東京、神奈川、千葉、埼玉に 17,400 人) 災害関連死が 1,000 人以上
- 低線量被ばく、内部被ばくなど科学的検証がない不安
- すすまない住宅除染 (除染計画 81,092 戸 発注 43% 完了 6%)
(ゼネコン丸投げ)
- 手つかずの森林除染(福島県の 70%が山林)
- 不十分な損害賠償、遅れる損害賠償、地域を分断する損害賠償
(精神的損害賠償、財物賠償、営業賠償、風評被害、自主的避難)
- 耕作放棄地の拡大・制限指示が農家の心の制限に
(作付制限・自粛の水田が 1 万ヘクタール、果樹栽培の減少 226 ヘクタール)

2、 復興の歩みが進んだのは耕して米、野菜をつくった農地と農産物 「土の力と農人の耕す力で『福島』が検証された」(茨城大学中島名誉教授)

- 玄米の全袋検査で 99.6%が 25 Bq/kg以下(11月中現在)
- 野菜はほとんどが不検出(検出限界値 10 Bq/kg)
(二本松市は 12 月から学校給食に検出限界値未満の二本松市産米と野菜・果樹の使用を決定)
- コープふくしまの調査による食事の測定結果は検出世帯はゼロ(6月~8月)
- ただし、梅、栗、柿、ゆずなど(永年作物の樹木系)は今年もセシウムが移行している。山菜、きのこ(野生きのこ、原木しいたけ)は出荷制限。

3、 農家、住民と大学研究者の共同の実態調査で見えない放射能の見える化

○放射性物質(セシウム)を土中に埋葬し、粘土質と腐植の複合体に微生物資材を活かした有機農業による営農の力が検証されてきた。

○地形も気候も土壌も知っている農民と共に農民のための実態調査と研究を。

4、 食べ物の自給とエネルギーの地域自給による地場産業と雇用をつくる地域づくり

○原発事故は都市と農村、過疎と過密がつくりだした人災

○地方に押し付けてきた、ゴミ、基地、水俣病、そして原発

○加工品の地域循環と地域分散型再生可能エネルギーにより働く場をつくる
(ふくしま・ゆうきの里モデル構想)

5、 再生産可能な農林漁業こそが持続可能な社会をつくる

○東日本大震災で発揮されたNPO、NGO市民団体の支援の力
(国、県の指示待ちでは進まない復興)

○都市住民も耕す、汗をかく。農民と共に市民が里山を耕す共生の時代

6、 経済成長から脱却し、いのちを育む「人間復興の経済」と有機農業の力

○有機農業を安全安心に矮小化しない
(原発事故により崩れた提携のありかた)

○美しい里山も、豊かな生き物も、国土の保全も農家は環境の生産者

○子どもからお年寄り、障がい者も共に汗して働く場が農業・農村

○地域の旬を食べる日本型食生活が生命力をつくる

○簡素で心豊かに共に支え合い自立する生き方へ
(地場産業、医療、教育、福祉、生きがいにつながるネットワークづくり)

An aerial photograph of a lush, green rural landscape. In the foreground, there are terraced fields with rows of crops. A large, irregularly shaped pond with a dark, reflective surface is the central focus. A light-colored dirt path winds through the fields and around the pond. In the background, there are rolling hills covered in dense green trees and a few small buildings. The sky is bright and clear.

**有機農業による地域の力と市民の力
—持続可能な共生の時代へ—
〈原発50キロからの報告〉**

ふくしま有機ネット 代表 菅野正寿



道の駅ふくしま東和 事業高2億円 24人の雇用

赤とんぼと桑の里



桑の葉は古来より、漢方として飲食されてきました。
中国では生薬として「神仙茶」と呼ばれています。
「お蚕様」の食べる桑の葉から、
健康食品として桑畑を再生しています。
私たちは地域資源循環の人の輝く
ふるさとづくりをすすめています。

ゆうきの里東和 桑葉生産組合の皆さん
(桑の葉・桑の実)

NPO法人 ゆうきの里 東和ふるさとづくり協議会 里山再生プロジェクト

「ゆうきの里 東和」

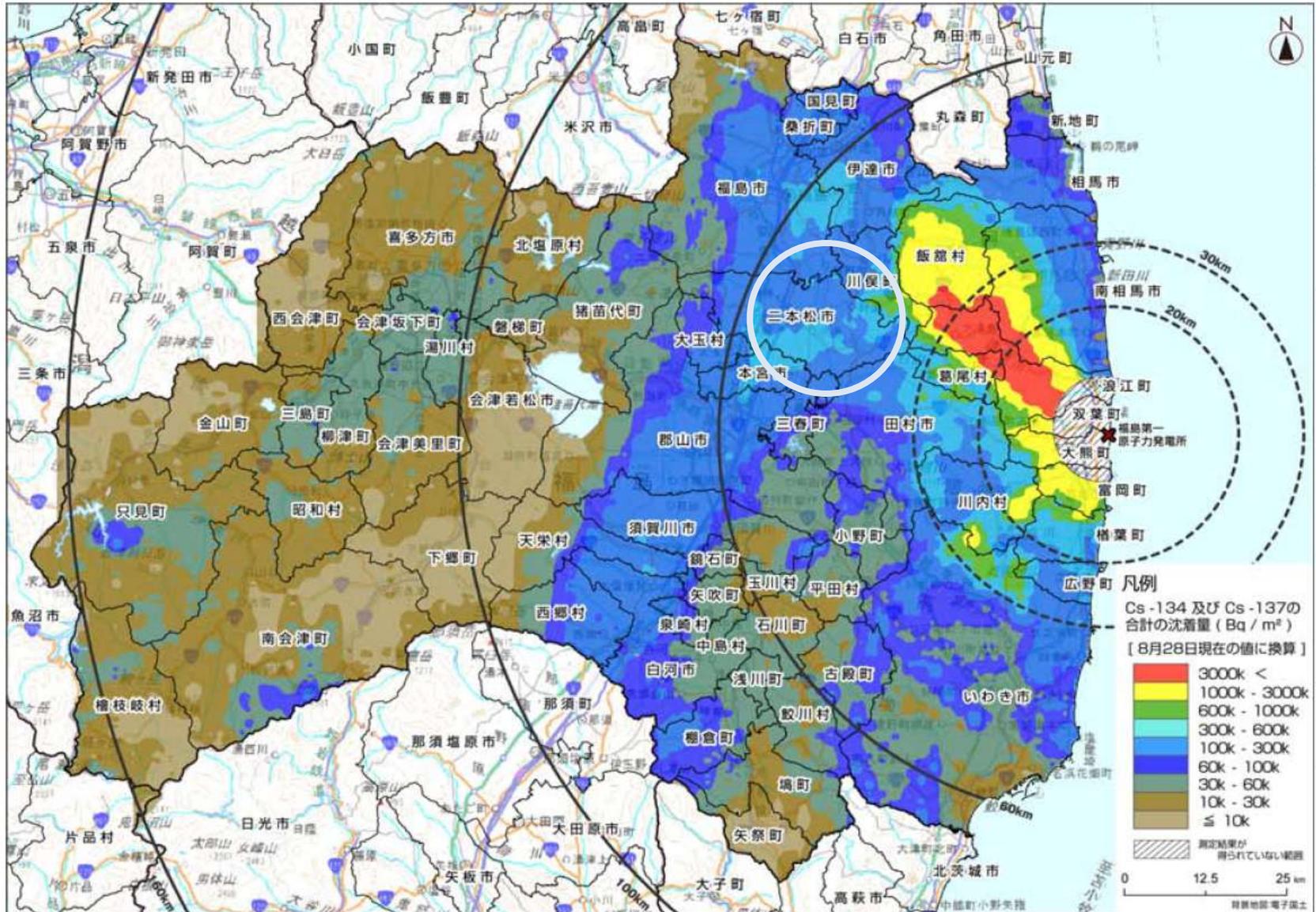
地域資源循環センター





新規就農者 30人

図1. ゆうきの里東和のモニタリング



文部科学省による福島県西部の航空機モニタリングの測定結果について
(福島県内の地表面へのセシウム134、137の沈着量の合計)

別紙2

詳細な調査が必要、同じ地域でも地形・栽培条件等で線量が異なる





摂取制限の翌朝、自殺

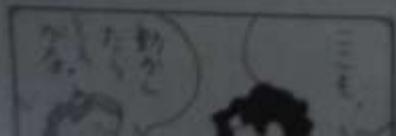
福島 有機農業30年の男性



畑には自殺した男性が作ったキャベツが並んでいた＝福島県須賀川市、西郷亨す

福島県須賀川市で24日朝、野菜農家の男性(64)が自宅の敷地内で首をつり、自ら命を絶った。福島第一原発の事故の影響で、政府が一部の福島県産野菜について「摂取制限」の指示を出した翌日だった。震災の被害に落胆しつつ、育てたキャベツの出荷に意欲をみせていたという男性。遺族は「原発に殺され

のめろし  4866

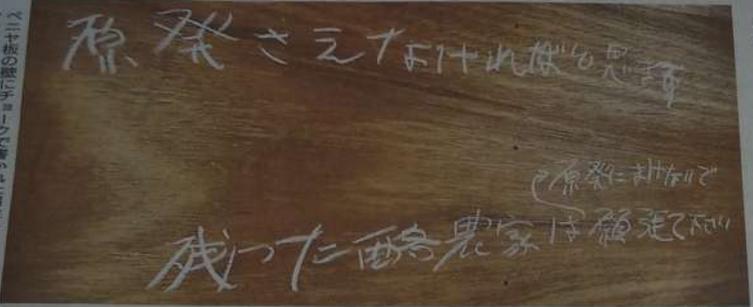


自殺した。ただ、畑の砂んぼの残ったキャベツは無事、試食も済ませ、収穫量も計った。遺族によると、男性は計日にハウレンソウなどの出荷停止措置がとられても「学をみてキャベツは少しづつでも出荷しないと」と話し、野菜の修理などに取り組んでいた。

23日に摂取制限の指示が出されると、男性はむせ多ぶるなしくさを繰り返した。「福島の野菜はもうだめだ。男性の次男(36)は、男性のそんなつぶやきを覚えていた。

新築の壁に残した無念

ペニ板の壁にチョークで書かれた無念のメッセージ。5月、福島県相馬市、金子家撮影



福島県相馬市の酪農家の男性(54)が今年、自ら命を絶した。「残った酪農家は原発に負けないで頑張っていたけど」。メッセージは、新築したばかりの堆肥舎の壁に残されていた。

残った酪農家は原発に負けたくないで

原乳廃棄 妻子と離れ牛も処分



新築したばかりの堆肥舎

男性は、東京電力福島第一原発から約60キロ離れた相馬市の山あいの小さな集落で、約40頭の乳牛を飼っていた。なかなか斜面の奥に母屋があり、手前に牛舎と堆肥舎が並ぶ。
真面目で仕事熱心。酪農家仲間や知人の一致した印象だ。午前8時から牧草を刈り、牛の世話をした。世話を終えた後に、畑仕事に出ることもあった。昨年未には、堆肥をつくっるために堆肥舎を新築し、農機具も少しずつ増やしなが、父親から継いだ牧場を大きくしようと懸命

に働いていたといっ。原発事故で3月21日に原乳が出荷停止となり、搾った原乳を捨てて日々が約1カ月続いた。「生乳が出せないからお金も入らない」と仲間たちにはこぼした。男性が所属するJAそうま酪農部会の酪農家28戸のうち、営業を再開できたのは16戸だけだった。
知人らによると、男性はフィリピン人の妻(32)と長男(6)、次男(5)の4人暮らしだった。その内のヤツケを着た妻が、牛舎で牛の世話を手伝った。
男性は長男の入学式を乗りしみにしていた。「郡山市まで行って、高いランドセルを買ってやったんだ。20年来の友人の酪農家(52)は、男性がそう言って笑っていた姿を思い出す。

故を心配したフィリピン政府に促されて帰国した。長男の入学式の直前だった。男性は同月下旬、妻子を追って出国した。「おらだめだ。べこ(牛)やめて、出て行く」「子どもらがいなくて寂しい」と周囲に漏らしていた。
フィリピンに行った男性は、連絡をしてきた知人に「牛は処分してける」と頼んだ。近所の農家や仲間が手分けして世話をすることを決め、引き取った。5月初旬、男性は1人で帰国した。「戻る気はなかったけど、言葉も通じなくて」。牛舎から牛は1頭もいなくなっていた。「迷惑をかけたすまなかった」と酪農仲間にもわびたという。
今月11日午前、広報紙を配りに訪れたJA職員が、亡くなっている男性を堆肥舎で見つけた。ペニヤの壁には、白いチョークでメッ

「先見えない被害長期ケ

警察庁のまとめによると、東日本大震災で大きな被害が出た岩手、宮城、福島3県の5月の自殺者は計151人。福島県は最多の68人で、昨年5月と比べ唯一の増加(19人)となった。
阪神大震災の経験から被害者(者)の



完備の身体、完全なる

セージが残されていた。姉ちゃんには大変お世話になりました。原発さえなければと思いましたが酪農家は原発にまけないで頑張ってください。ごめんない。にもできない父親です。た。仏様の面観にもさわけございません。(一部省略、原文ママ)14日、相馬市で葬儀されました。家族や酪農家00人が男性の死を悼んだ。フィリピンから駆けつけた妻子3人は寄り添って泣きじゃくっていた。





じいちゃんと孫の食事が別々 (学校給食の自粛)



住宅除染

写真4、農道の空間線量
(2012年9月調査新潟大学RI総合センター毘沙門チーム)



赤色1.0～1.5 μ Sv/h オレンジ～黄色0.5 μ Sv/h～1.0 μ Sv/h 緑0.5 μ Sv/h以下







EYE

Shisei
Network

全興源

SHIMADZU

2012/10/21 09:25

ID: 207 ○ 12 Bq/kg 未満

ID: 208

検査中...

1201-210-7958-27

検査開始 停止

検出率 8.32%

検出率 100 Bq/kg

検出率 77 Bq/kg

検出率 5.0%

検出率 17%

検出率 11,037 Bq

2号機



クミアイ家庭菜

荷 札 毛引元リ

入庫日	10/21		
時間	9:17		
荷主	博井商店	やまろく商店	JA二本松 梨ノ木RC (個人) 高橋道夫
	吉野 正寿		

EYE

15 10 $\mu\text{Sv/hr}$

RADIATION ALERT

Inspector

mR/hr $\mu\text{Sv/hr}$

CPM CPS

Total/Timer

Audio

On

Off



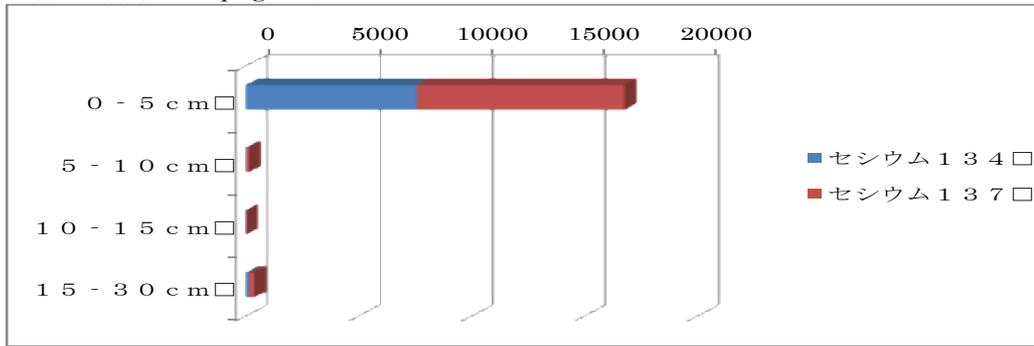
0.784 uSv/h

RADIATION ALERT
Inspector

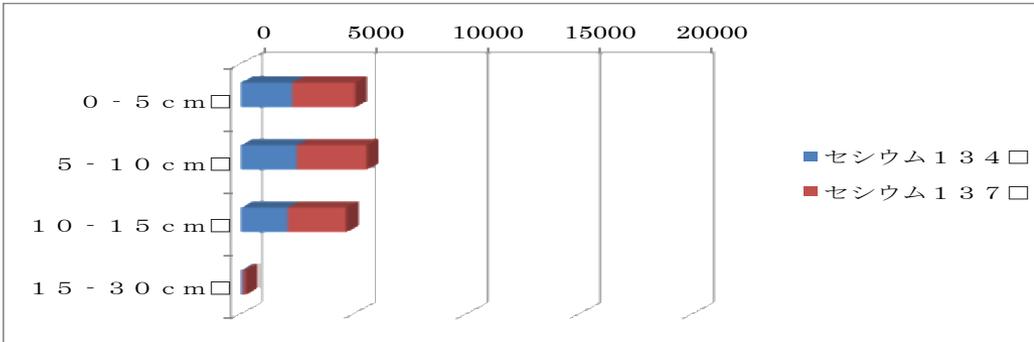
- mR/hr DSWhr
- CPM CPM
- Total CPM
- On
- Off



不耕起 (単位□Bq/kg soil)



ロータリ耕うん (単位□Bq/kg soil)



ブラウ耕 (単位□Bq/kg soil)

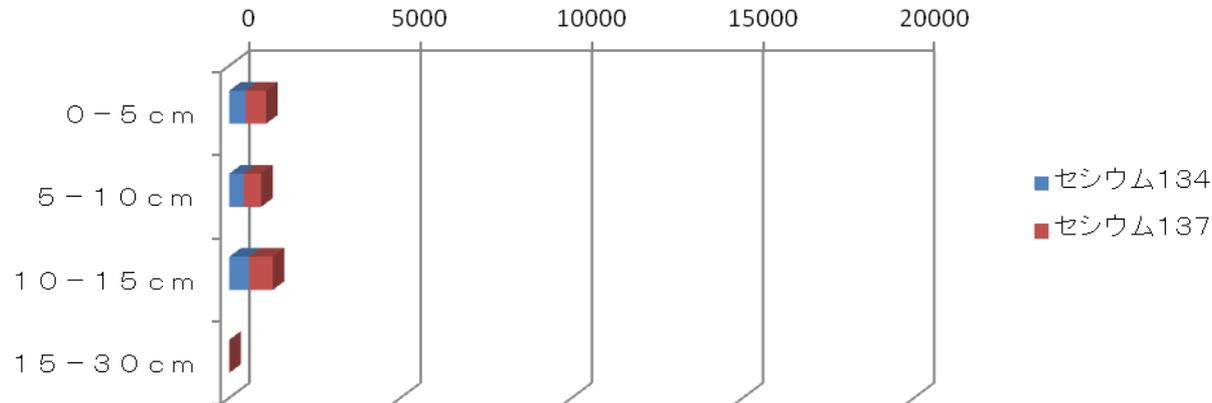




写真2. 二本松小浜で予備検査で暫定基準値を超えた玄米が検出された水田



上の田の周りに
山の水を集める水路
冷害を防ぐために
暖かい水を流すため

里山の水田は天水田
1年中かけ流し

田植え前 3000ベクレル
稲刈り後 3000ベクレル

上と下の水田の
玄米ははるかに低い

稲の栄養成長(上根)
→生殖成長
登熟期に水を通して吸収?

水路の周りの森林の枝打ち、落ち葉除去など管理も必要



農の営みを継続することで 放射能に勝つことができる

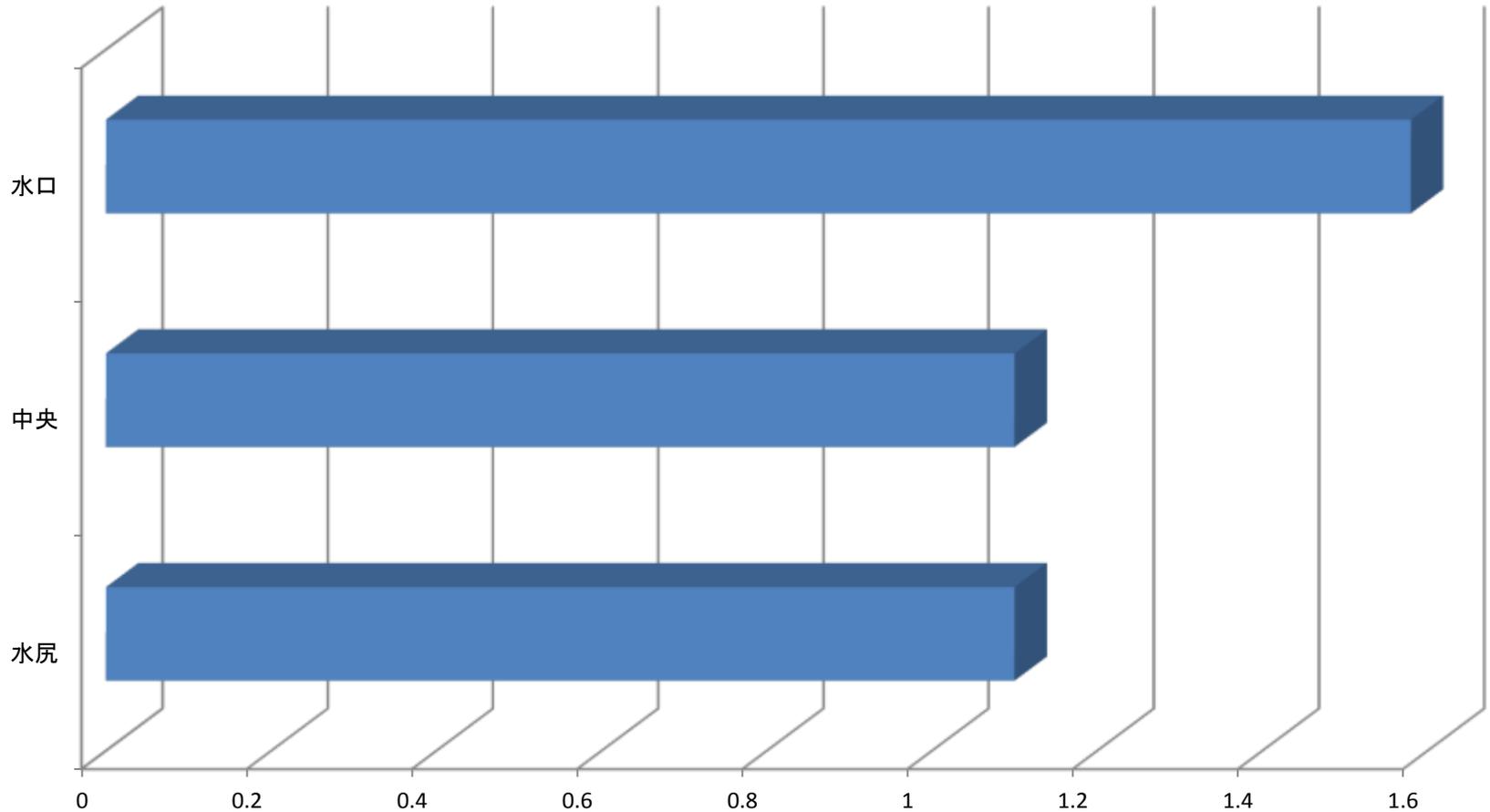
- 1) 耕作努力により田畑の放射性セシウムはかなり低下できる。
- 2) 土壌に混和された放射性セシウムはかなり強く土壌に保持される。
- 3) 作物への移行は当初懸念されていたよりもかなり低くなった。
- 4) 不耕起の場合は雑草・土壌表層に放射性セシウムは蓄積・里山森林では腐植層に9割以上蓄積、**今後、森林調査を通して水からの流入に要注意。**
- 5) 今年の落葉の大丈夫？使える場所はある。

除染という言葉はやめよう、今までの農業継続で放射能は低減できる

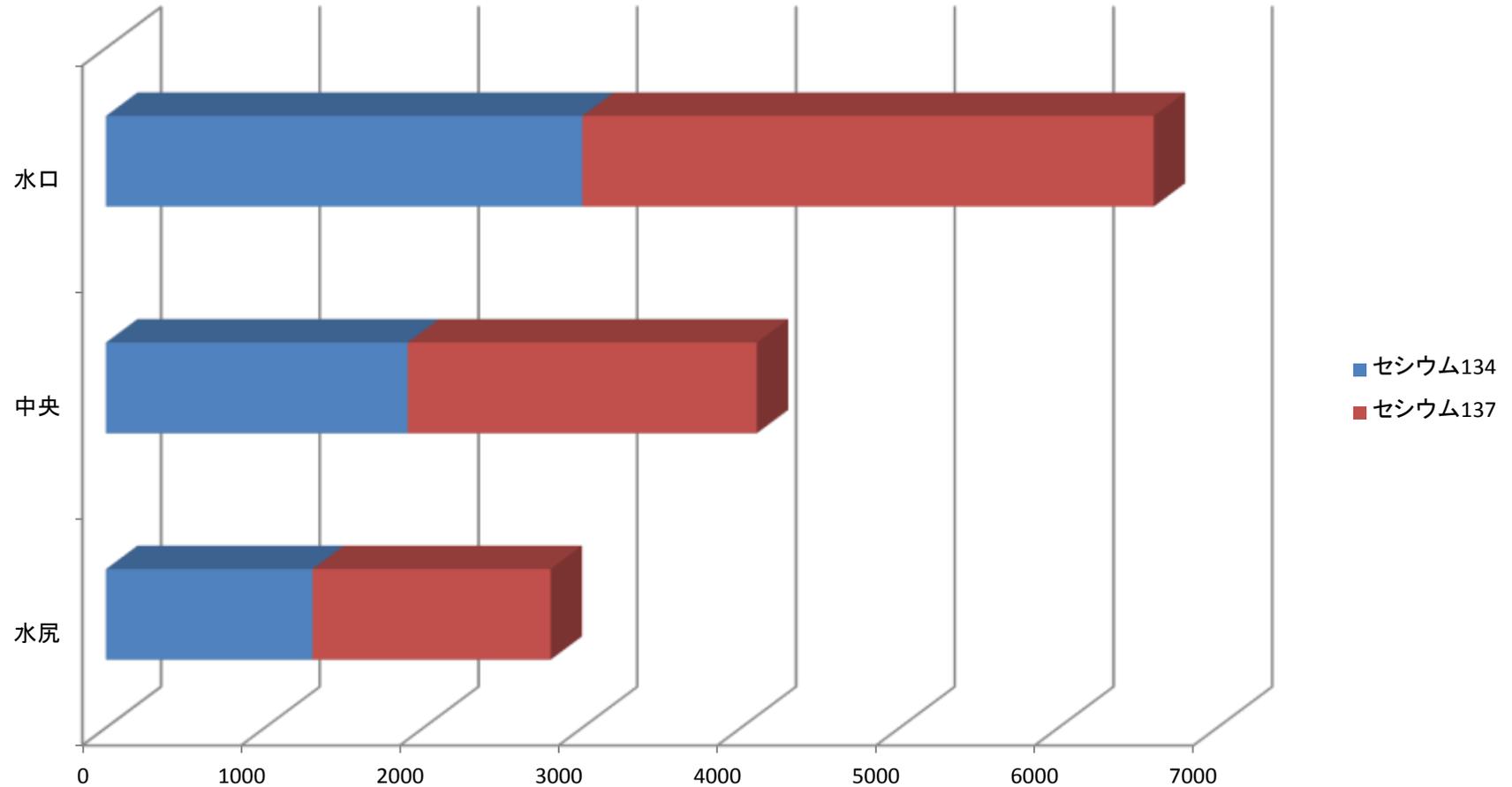
布沢水田土壤



布沢土壤表面(1cm)空間線量($\mu\text{Sv}/\text{h}$)



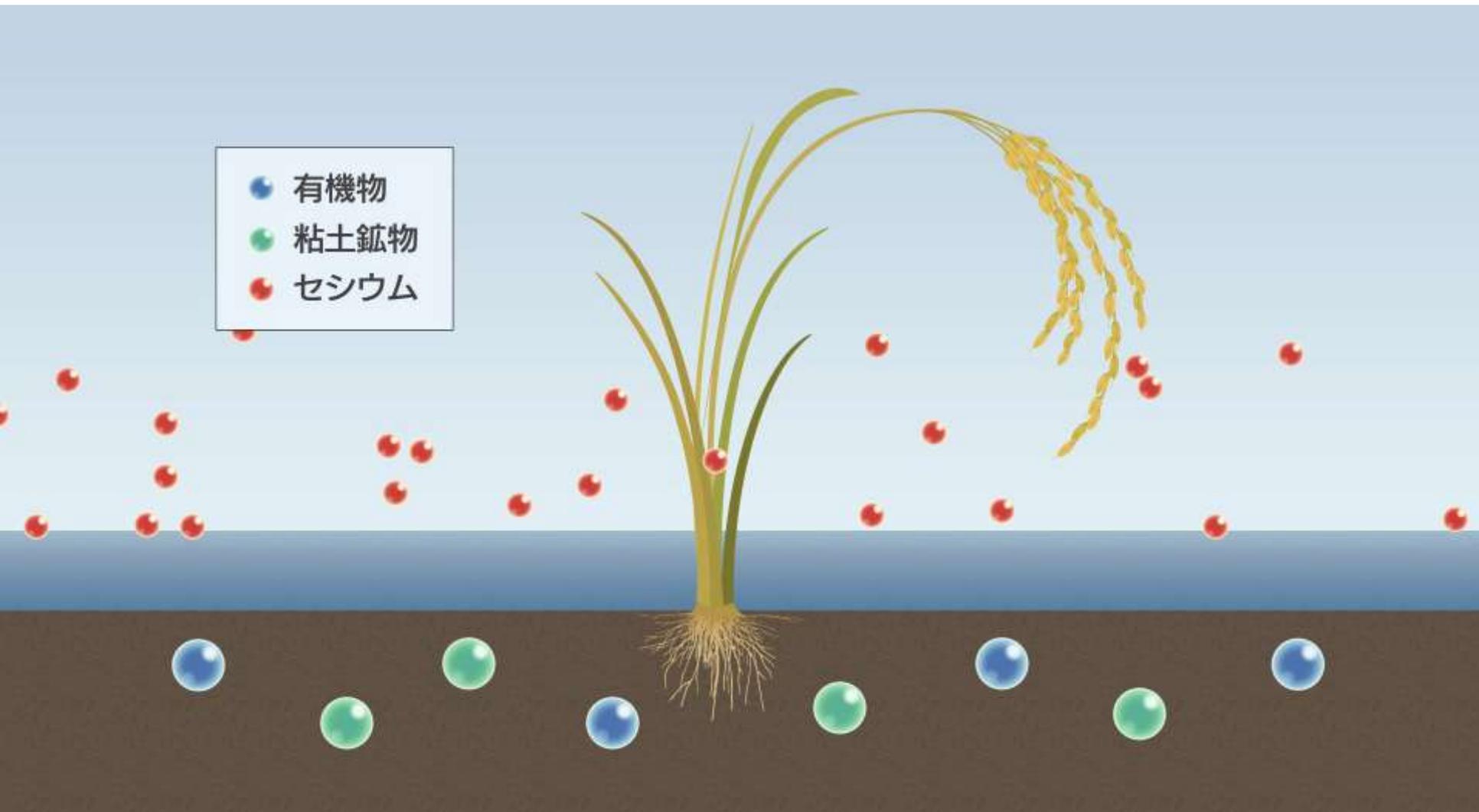
布沢土壤線量(Bq/Kg乾土・15cm)



放射性セシウム(134+137) Bq/Kg ④の変化

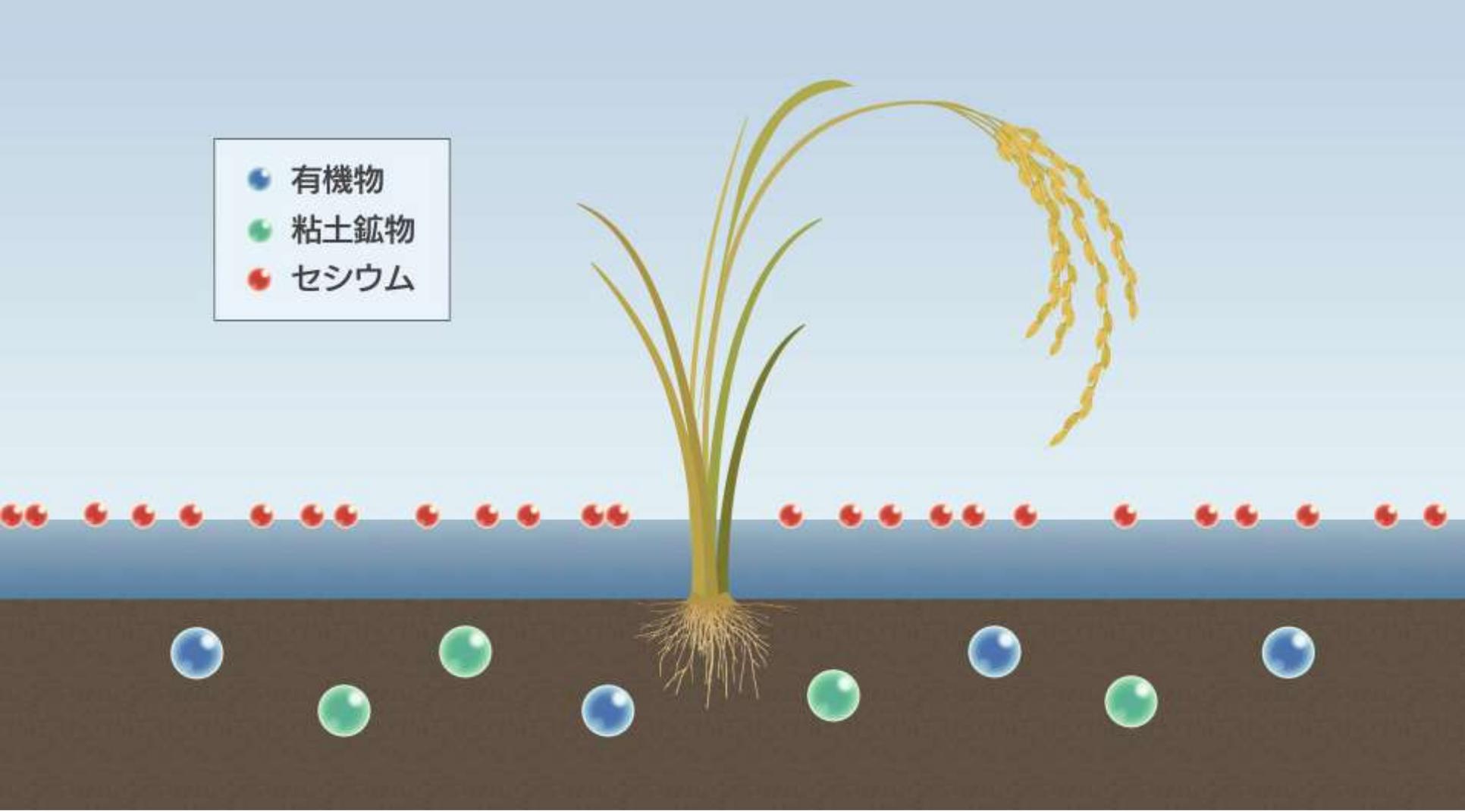
	水口	中央	水尻
(空間線量)	1.55	1.10	1.10($\mu\text{Sv/h}$)
土壌	6600	4100	2800
イナワラ	216	115	146
粃殻	151	30	88
玄米	56	ND	ND

この水田はぼかし肥料を使用



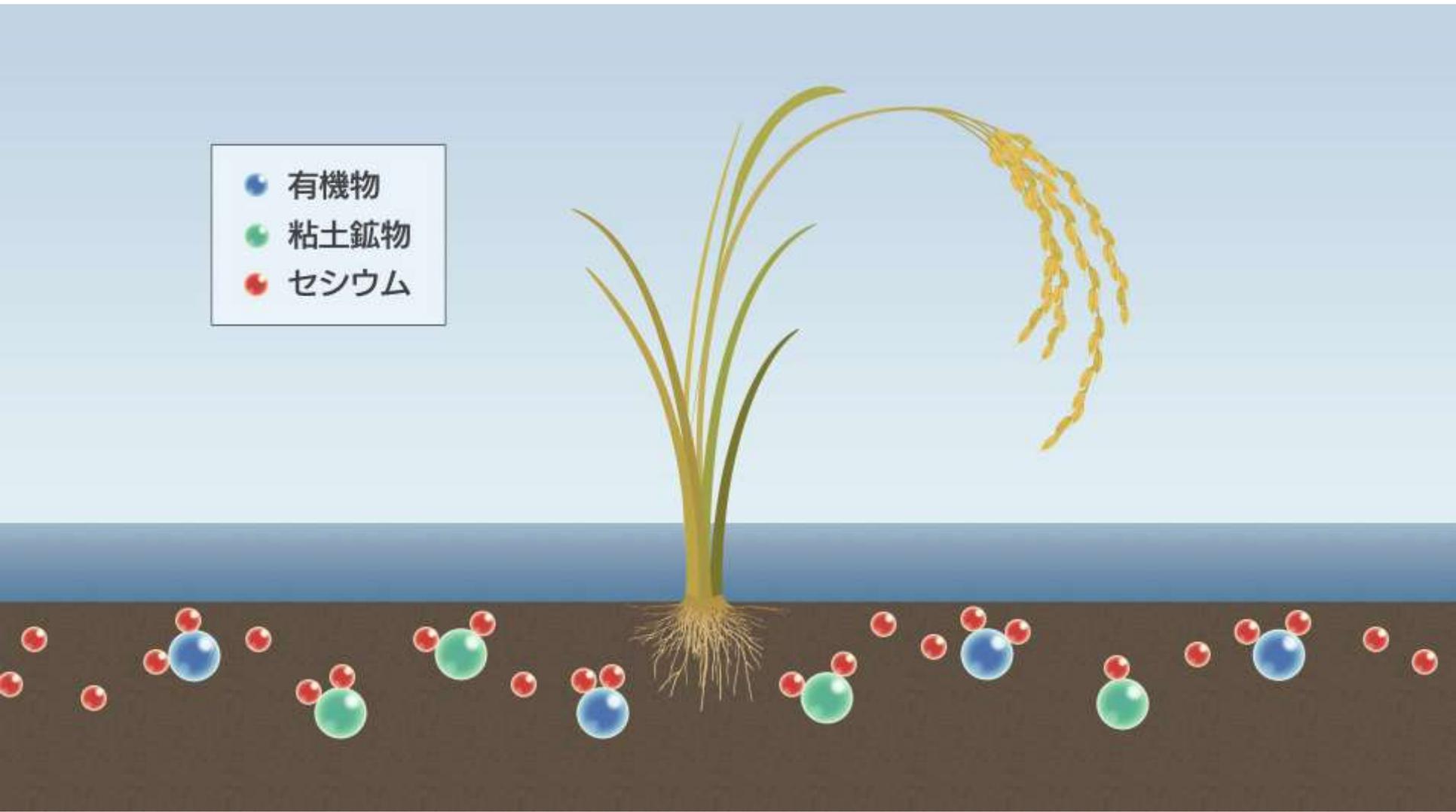
資料：NHK 「クローズアップ現代」

- 有機物
- 粘土鉱物
- セシウム



資料：NHK 「クローズアップ現代」

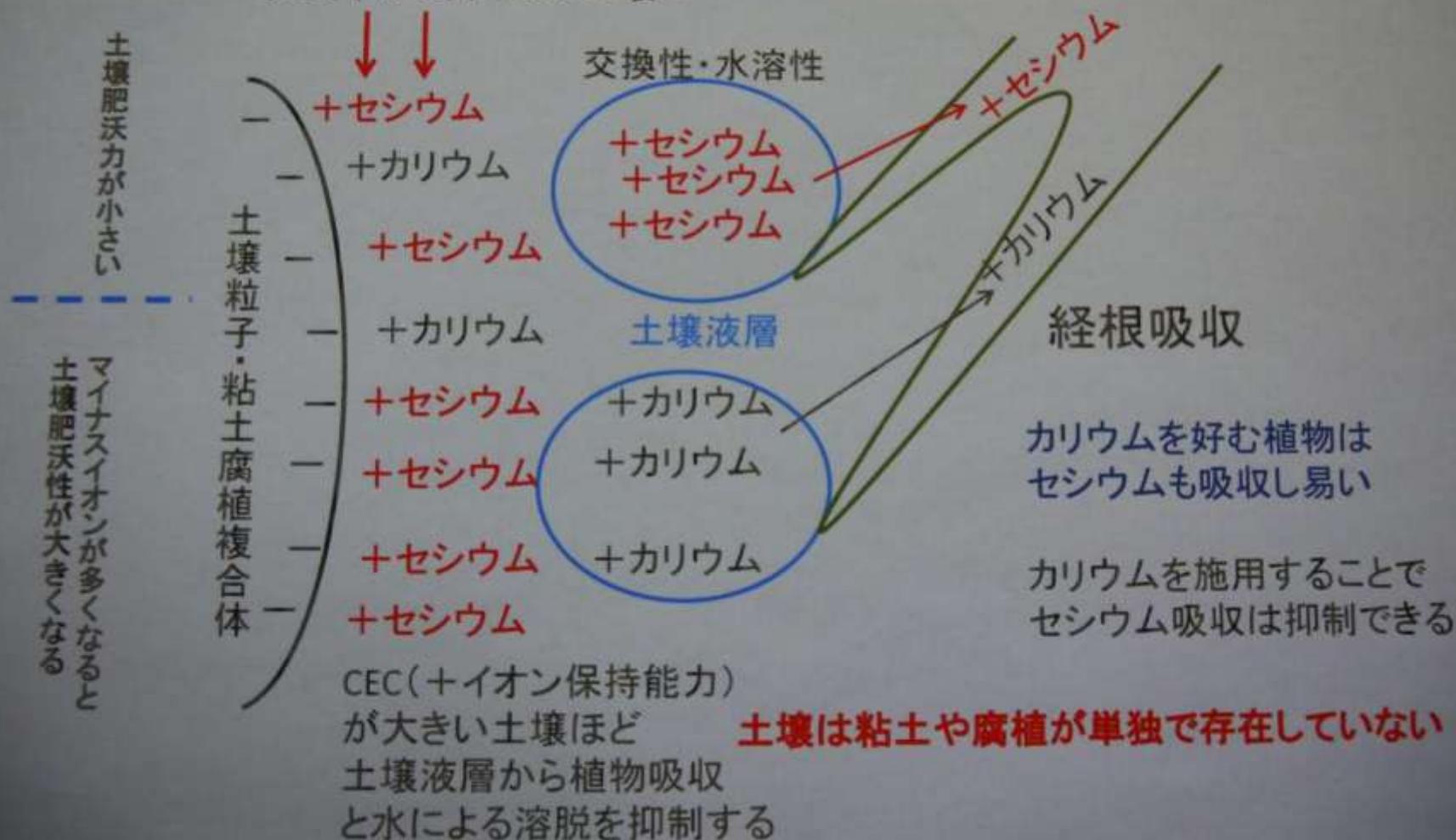
- 有機物
- 粘土鉱物
- セシウム



資料：NHK 「クローズアップ現代」

図6. 土壌中の粘土・腐植複合体の放射性セシウムイオン吸着・固定と交換

大気中から降下して土壌へ









五反田サンプリング地点(2012年9月)水口 手前ゼオライト設置



用水に含まれる
放射性セシウム

①2012年6月14日

晴天時

溶存態

0.015Bq/L

粒子状(S. S.)

0.302 Bq/L

②2012年6月20日

台風大雨時

溶存態

0.126Bq/L

粒子状(S. S.)

2.286Bq/L

大野さん水田の放射性セシウム (134+137) Bq/Kgの変化

	水口	中央	水尻
土壌(2011秋)	4600	2040	1350
土壌(2012春)	1720	1100	1720
土壌(2012秋)	3500	2040	1740
イナワラ(2011)	140	92	122
イナワラ(2012)	143	50	19
籾殻	25	34	35
玄米(2011)	ND	ND	ND
玄米(2012)	ND	ND	ND
ゼオライト	66 Bq/Kg(63,48,88平均値)		
もみ殻	640 Bq/Kg(610, 620, 690平均値)		

測定誤差は一桁、測定限界値10Bq/Kg





かをり & あっこ



たんぼ

ふくしまを応援してナエル

5月26日
ごしひかり田植え











Marie-Monique Robinさん(「モンサントの世界戦略」 製作者)と共に原発事故の教訓を世界に発信



右側:菅野さん

2012年
国連持続可能
な開発会議
NPOとして発言

農業・有機農業・自然と原発は共存しないことを映画で発信

写真提供:
野中昌法



有機農業が創る、持続可能な新しい時代へ

1. 地域資源循環型農業と農法・その再生の大切さ
2. 農家の自給・地域自給による地域の再生
3. 共に持続可能な社会をつくる共農・提携関係づくり
4. 地場産業を育て、雇用をつくる地域づくり(地域住民による復興)
5. いのちを育むネットワークづくり(地域コミュニティの再生)

ご清聴ありがとうございました